

優秀賞

住宅の部

建築主：東山氏
設計：伊藤潤一建築都市設計事務所
多田脩二構造設計事務所
施工：株式会社大和工務店
所在地：船橋市宮本

～家族の気配を縦横に伝え合うユニークな住まい～

スパイラル アンド パラレログラム
Spiral and Parallelogram/クレバスノイエ



外観1

計画地は船橋市の住宅街で、北と東に道路、西と南の隣地には木造住宅のある角地である。隅切りした長方形の敷地を囲む素朴な杉板塀が、螺旋を描きながら外壁となり連続して昇っていく様子はシンプルで造形として、とても美しい。

建物の空間構成の基礎は敷地を3分割した長方形を変形して中央にできた平行四辺形だ。各頂点を徐々にリフトアップしていくことで外観の螺旋を描き、壁が生まれ、壁は単に内外の領域を分けるものではなく、ポーチの低い壁、テラスの風を通すルーバー、道路から守る壁、西日を遮る垂壁など役割を持ち、多様な場を生み出すためのツールとなっている。

内部空間のLDKとテラスは長方形の対角線上のサッシで内外に分かれる構成となっているため、LDKからテラスへの横への広がりや視線は場所によって変化がある。テラスからはクレバスの空が見えて、吹抜上部を見上げると三角形のクレバス状の入隅がある。閉じた空間や抜けた空間などがある不思議な感覚だ。また吹抜に面した2階は縦格子で仕切られているため、家族の気配を感じながら1、2階へつながるワンルーム空間をゆるやかに

分ける。縦と横につながる空間だ。

単純な幾何学を用いながら、内外に複雑で多様な空間を巧みに作り上げた丁寧な設計は無駄なところがなく、臨場感がある。施工者も細部の納まりまで検討していた。また、建築主は設計意図を理解して、家具の仕上げや選定、配置も「クレバスノイエ」にふさわしく、うまく住みこなしていることに好感がもてた。「クレバスノイエ」は3者の協力から生まれた優秀賞にふさわしい作品だ。（藤本 香）



外観2



LDK
(撮影全て/浅川 敏)